

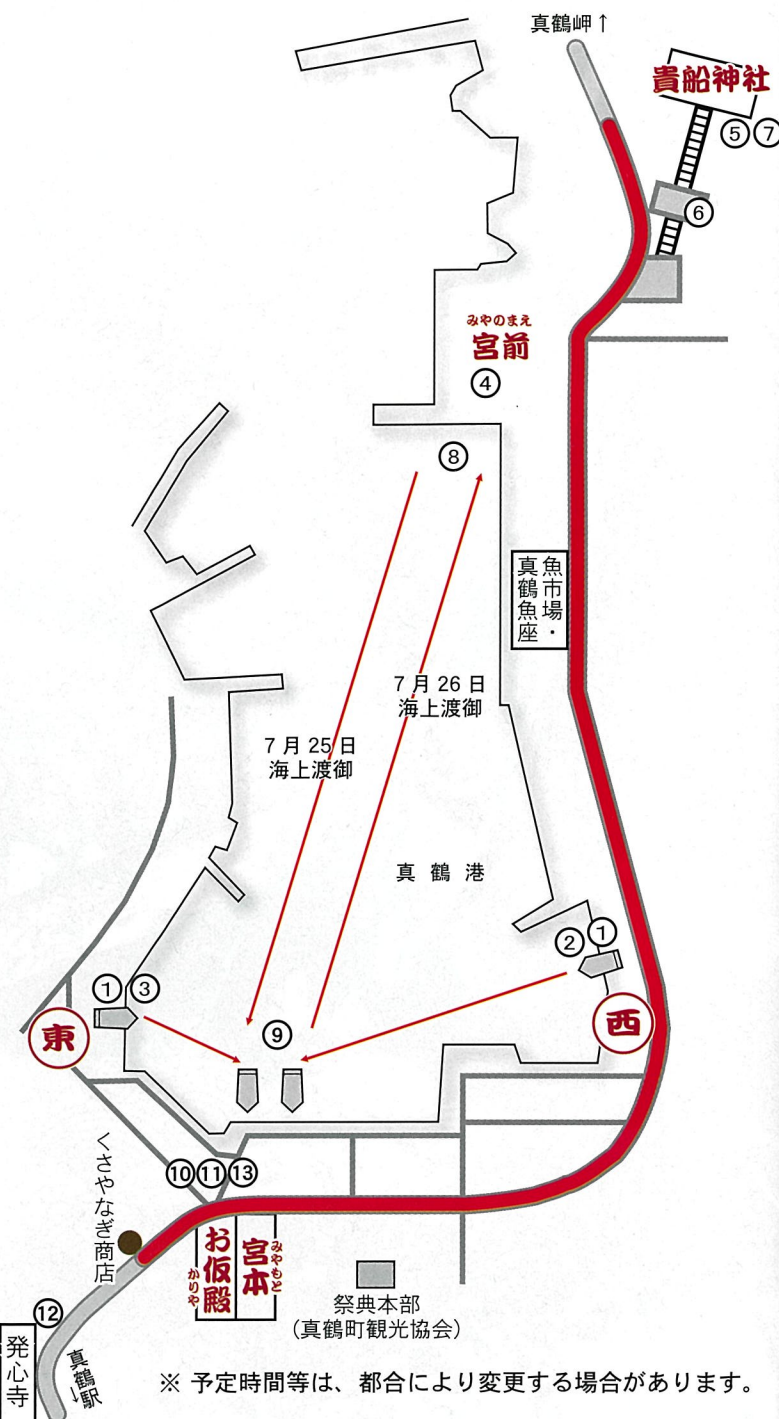
7月25日金 宵宮

- | | | |
|---------|------------------------|------|
| ① 9:00 | 西小早船乗迎え、乗船 | 西船揚場 |
| ② 9:30 | 東小早船乗迎え、乗船 | 東船揚場 |
| ③ 10:00 | 西小早船水浮け（進水式） | 西船揚場 |
| ④ 11:30 | 東小早船水浮け（進水式） | 東船揚場 |
| ⑤ 11:40 | 献幣使奉迎 | 宮前岸壁 |
| ⑥ 12:20 | 神社祭式 | 拝殿 |
| ⑦ 13:00 | 神輿発輿式 | 拝殿前 |
| ⑧ 14:10 | 海上渡御（宮前～宮本） | 宮前岸壁 |
| | （東西權伝馬・西小早船・神輿船・東西囃子船） | |
| ⑨ 14:40 | 宮本到着 | お仮殿 |
| ⑩ 15:40 | 仮殿祭 | お仮殿 |
| ⑪ 15:50 | 鹿島踊り奉納 | お仮殿前 |
| ⑫ 16:00 | 花山車下降 | 発心寺 |
| ⑬ 17:00 | 花山車着納 | お仮殿 |

7月26日土 海上渡御

- | | | |
|---------|------------------------|------|
| ⑨ 19:40 | 宮本出発・海上渡御 | 奉納花火 |
| | （東西權伝馬・東小早船・神輿船・東西囃子船） | |
| ⑧ 20:10 | 宮前到着 | |

7月26日（土）
18:00～21:00 車両通行止め
（許可車両以外は通行できません。）



※ 予定時間等は、都合により変更する場合があります。



②③ 水浮



⑦ 神輿発輿式

②③ 東西の小早船が進水します。

⑦ 神輿発輿式が終わると、神輿が貴船神社の108段の階段を下ってきます。



海上渡御

小早船（こばやぶね）

貴船まつりの特色は、神輿が海上渡御により村里にお出ましになる船祭りであることですが、中でも東西に華を競う小早船の存在は、祭りの花形です。

長さ12～13m、幅2.5mの船体に、細長い8畳ほどの屋形が組み立てられ、屋形および船の前後左右を色とりどりの装飾で隙間なく飾りたてます。

船首には「舳乗り」、船尾には船頭、櫂使い、水夫を乗せ、運航等に万全を期します。この小早船の海上渡御の神事では、観客の面前で船体を左右に大きく揺さぶりながら方向を変える姿が見どころの一つ

ですが、船の復元力の保持や組み立てられた屋形の安全性および進水、操船の方法などに習熟した技術が要求されます。



權伝馬（かいでんま）

海上渡御にあたり、神輿船・小早船2隻・囃子船2隻の計5隻の船を曳航する2隻の手漕ぎの大型伝馬船です。曳航には相当の力を要し、航行の途中から競漕も行われます。過去にはこの競漕で村落の東西に分かれて激しく競い合った歴史もあります。この伝馬船の操作こそ海に生きる人々の必須の技術であり、海難事故の際には神社の倉庫から小早船や權伝馬を出して救助活動に生かされたこともしばしばありました。



花山車（はなだし）

18cm角の柱の上部に造花で飾りたてた万燈型の手で持ち歩く山車で、高さ3m、重さは60kg以上にもなります。過去には石船等の関係者が担当し、日常仕事を通じて養われた腕力を祭りを機会に披露する一種の「力くらべ」ともみられます。振り方には数種ありますが、よほど腕力のある人か、練習を積んだ人でなければ支えきれません。常に鹿島連に先行して、振りながら町内を巡行します。



鹿島踊り（かしまおどり）

鹿島踊りは、相模湾西岸、小田原西部から伊豆北川までのいずれも石材産出に関わった地域の22社で行われる神事で、悪疫退散とともに大漁や海上安全を祈願しての踊りといわれ、他市町が白装束で頭に烏帽子をかぶるのに対して、貴船まつりは浴衣姿に3色の色帯、そろいの手甲飾り、無帽です。これは昔から「小江戸」と呼ばれたほど華やかさを誇っていた地域性を反映したもので、真鶴の解放的な指向がうかがわれます。「貴船まつりは鹿島踊りに始まり、鹿島



踊りに終わる」とさえ言われるほど、祭りに密着し、見どころの一つとなっています。

真鶴囃子（まなづるばやし）

両日にわたり、海に陸に貴船まつりをにぎやかに盛り上げるのが、この「真鶴囃子」です。

貴船まつりは古くから土地の産業体系に結びついており、役割を「漁業関係者・石材海運関係者・若人衆」で分担していましたが、「囃子」を担当していた「若人衆」に変わり、現在では町の有志による保存会が伝統の継承に努めています。

